

## 2019年6月推薦図書

【危機管理学部 太田 茂先生】

『いのちのヴァイオリン』中澤宗幸著 ポプラ社 2012年

著者の中澤さんは、日本最高の弦楽器製作者、鑑定家の一人です。貧しくとも厳しく愛情深かった父親が趣味で作っていたヴァイオリンの魅力に惹かれ、若くしてイギリスに渡り、ヴァイオリン製作の修行を積みました。その誠実で真摯な人柄により、多くの音楽家や弦楽器製作者から信頼され、応援されて技術を磨いた後、帰国し、渋谷に日本ヴァイオリンという立派な弦楽器店を創設しました。ストラディヴァリウスを始めとした最高の楽器を取扱い、日本のみならず欧米の著名な音楽家達の楽器の修理やお世話をし、また地域の音楽活動の様々な支援もしています。東日本大震災のあと、復興を支援したいと、津波で倒壊した家屋の木材を用いてヴァイオリン、ビオラ、チェロを製作し、「TSUNAMI ヴァイオリン・プロジェクト」として、プロアマを問わず 1000 人の音楽家たちが弾き継いでいく企画を続けています。現天皇陛下も、このビオラを演奏されました。心暖まる本です。

『江戸の遺伝子：いまこそ見直されるべき日本人の知恵』徳川恒孝著

PHP 研究所 2007年

著者は江戸 260 年の時代を築いた徳川家の十八代の当主です。江戸時代というとは何か昔の古い封建時代のように感じられるかもしれませんが、そうではありません。日本が明治維新後に急速に近代化でき、今日の繁栄を築いたのは、江戸時代に生まれ、築かれた様々な素晴らしい文化、経済、社会の基礎があったからです。ヨーロッパやアジアの諸国では権力を持つ国王に富も集中し、民衆は抑圧と悲惨な貧しさに苦しんでいました。しかし、日本は権力や権威を持つ武士が、質素・勤勉で厳しく自己を律し、身分が最も低い町民たちが活発な経済活動による富を得て豊かな生活を楽しんでいました。町民達の識字率の高さ、江戸の街の衛生の充実、勤勉で礼儀正しい国民性などは、当時来訪した外国人たちが驚嘆しています。日本人として、自らの歴史を学ぶことは大切であり、本書はその最良の入門書の一つです。

『ゼロ戦特攻隊から刑事へ』西嶋大美・太田茂著 芙蓉書房出版社 2016年

自分の本でスママセン。でもこれはスゴイ本です（著者がスゴイのではなく、主人公の大館和夫氏がスゴイのです）。氏は現在 93 歳。警視庁本部道場の剣道稽古会の最長老で、今も週三回の朝稽古を欠かさず、少年剣道の指導も 30 年以上続けています。氏は、16 歳で予科練に志願し、ゼロ戦に乗って台湾やフィリピンで太平洋戦争を戦いました。18 歳で特攻隊に「志願」し、以来、7 回の特攻出撃をするも敵艦と遭遇せず、昭和 20 年 8 月 15 日の最後の出撃直前に天皇陛下の玉音放送により出撃が中止され、奇跡的に生還しました。同期の桜の戦友の多くは特攻戦死。氏は、20 歳で警視庁警察官に採用され、亡き戦友への鎮魂の思いに支えられて警視庁の名刑事として活躍し、様々な重大事件を解決しました。今の日本の繁栄は、国と国民のために命を捧げたこのような無名の多くの若者たちの尊い犠牲の上に成り立っています。一人でも多くの国民に読んでいただきたい本です。